三里塚 野戦病院ニュース
NO.18
'71.5.1
成田市駒井野
三里塚現地
救対本部

部落健康診断に突入す。

第二次強制土地収用阻止に向けて

渡辺義二さん奪還される。

全国のみなさん、三里塚農民の不退転の斗いは、二・三月の政府・公団による人殺し地下壕破壊をはねのけ、三ケ月にわたって第一・第二地下壕を防衛し抜き、農繁期の今も意気揚々と斗い続けています。さらに農民の死をも恐れぬ決意と脈々とし、農作業の遅れをとりもどし、第二次収用阻止に向けていつでも斗える体制を作り上げています。

四月五日に権力の手から奪還された内田行動隊長に続い、四月二五日、公団の殺人的立木伐採によって全治六ケ月の春椎圧迫骨折の重傷を負わされた反対同盟渡辺義二さんは、二ケ月の入院生活を斗い抜き、家族のもとに奪還されました。しかしあと数ケ月の通院生活が強制され、農作業にも従事できません。即者の大木よりさんも病気をはねのけ、第二次収用の対象となっている家宅・田に対する公団・ガードマンによる日々の襲撃と斗っています。

六月に向け進撃し、戸村香島長を成田市議に送りこんだ反対同盟の斗い恐怖する公団は、こともあろうにマスコミ「朝日」を使って同盟切り崩し策動を企み、紙面をにぎわす造記事を載せ、さらに「朝日」の記者は家宅にたびたび入って一人一人に「大量脱落があったらどう思うか」「他の人が皆落ちたらどうするか」などとほざいています。

しかし反対同盟は切り崩し策動をものともせず、敢然と斗い続けています。

野戦病院、部落健康診断を開始す。

反対同盟によって建てられた駒井野団結小屋横のプレハブの一階を借りて、第二次強制収用阻止に向けて斗う農民の健康を保障するために医療活動を続けている三里塚野戦病院は、四月二五日の東峰部落を反切りに部落健康診断に突入しました。それは何よりも二・三月決戦における戦動隊の人命を無視した弾圧を受けいまだ痛みのとれない人や、毎日の忙がしい農作業の中で疲労をつみ重ねている農民の人たちの健康を少しでも回復させ、より健康な生活ができるように、さらには六月決戦に向け身体を万全にして斗うことができるように、反対同盟全員の対象としたものです。

われわれは、地域住民の意思を無視した体制医療保健所の補完としてではなく、反「日本医学会」総会において明らかにされたところの全人民とりわけ被加療者の先発を真しに受けとめ、体制医療に対する切りこみをも準備しつつ、斗う反対同盟農民の次期決戦に向けた決意を肉体的にも保障すべく、野戦医療と表裏一体のものとして健康診断を行っています。

健康診断は、反対同盟の中核を担っている三部落・七百有余戸全部を、一日一部落という日程で巡回し、野戦病院医師を中心に各屋会所において、血圧検査・検尿・検便・心電図による診断・問診・聴診・鍼灸を軸とする健康相談などを行っています。

すでに行われた東峰部落においては、保健所のものでは考えられない70%以上もの参加によって、家族こぞっての健康診断となっています。われわれは断固としてたとう一ケ月間の健康診断を担い抜く決意です。

全国のみなさんの三里塚野戦病院に対する支援を強く訴えます。